

獣医師の就業環境の未来を考える

—すべての獣医師が働きやすい職場づくりに向けた取組（Ⅰ）—

すべての獣医師がのびのびと活躍できる環境づくりのために ～地方獣医師会からの一考～

竹村裕子[†]（滋賀県獣医師会 副会長）



1 はじめに

女性獣医師活躍推進委員会のメンバーに入れていただき4年になる。

その前身には「女性獣医師支援特別委員会」があり、全ての獣医師が活躍できる環境づくりのために多くの課題を前向きにとらえ、積極的に提案を続けている。委員

長に続く形で、今回は少し異なった視点から考えてみようと思う。

2 多くの課題

委員会で検討を進めていく中で、今までの何となくの認識がはっきりとした数値となって、また意見となって浮き彫りになってきた。女性にはライフステージの変化・分岐点が何度かあり、その度に立ち止まり悩むことが増える。それは男性であっても同様であるが、完全に全うしようとするとは自分のがんばりと周りの支えに頼るしかないことは今も続いている。パートナーとの協力関係、家族の助け、職場においては理解ある上司・同僚に恵まれてこそ続けることができる。

雇用者・管理職への理解醸成のための取組も実施しているが、このこと自体の周知や意識改革が進むことを願っている。そしてそこには、本人の考え方も大きくかわってくると思う。このことについては後に書くことにする。

3 地方獣医師会

委員会では、地方獣医師会に対しアンケート調査を実施し協力をお願いしている。それぞれの獣医師会が持つ特性により抱える問題も異なり、掲げる目標を一樣に当てはめることが困難なことがわかった。が、その一方で女性部会や委員会などが設置されている獣医師会も増え

ている。アンケート結果については、地方獣医師会に報告されているので是非ご覧いただきたい。

また、今後についてもアンケートは継続の予定であるので、ぜひ獣医師会全体としてアンケートをとらえ、理事会や女性部会・委員会などで回答を作成していただくとありがたい。

一口に地方獣医師会といってもさまざまな形がある。都道府県名を冠する獣医師会・〇〇市獣医師会、その会員構成も、多くの職域を有する会・開業（小動物部会）の先生だけで構成される会など、それぞれ事情が違う。

それを踏まえたうえでアンケート結果を少しお示しする。

地方獣医師会の女性役員の人数・割合等(令和4年度)

令和4年6月現在、役員総数は967名、うち女性が84名(8.7%)。

昨年より女性役員は3名、女性役員が就任している地方獣医師会は4会増えた。

過去3年間の推移は表のとおり。

表 役員総数と女性役員数等の推移
(令和2年～令和4年)

	令和2年	令和3年	令和4年
役員総数	978	969	967
女性役員数	75	81	84
(割合)	7.7%	8.4%	8.7%
女性役員が就任されている地方獣医師会数	41	45	49
(うち女性役員2名以上)	19	22	22

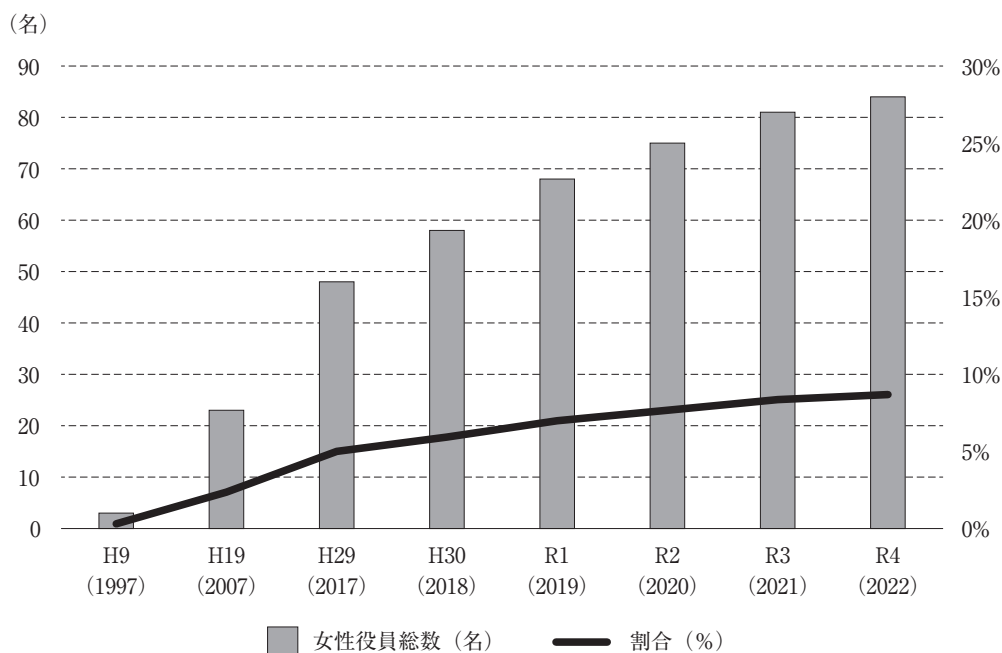
[†] 連絡責任者：竹村裕子（公社滋賀県獣医師会）

〒520-0807 大津市松本一丁目2-20 滋賀県農業教育情報センター内

☎077-526-1966 FAX 077-528-2097

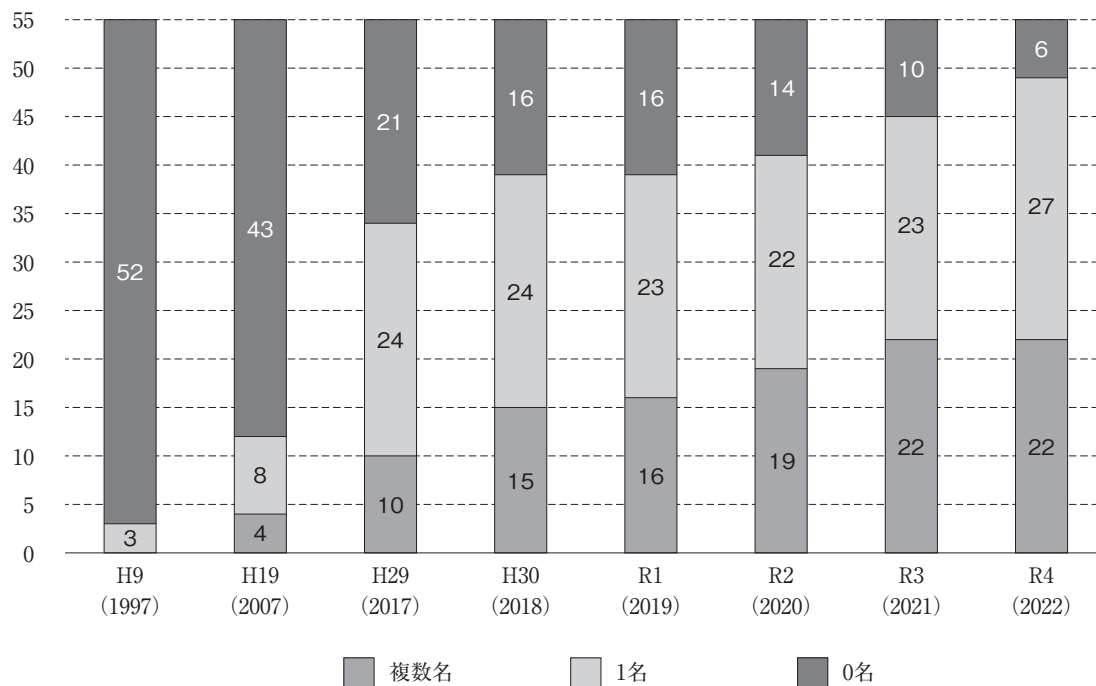
「女性役員数」及び「役員総数に占める女性の割合」の推移

総数、割合ともに年々増加している。



地方獣医師会の女性役員就任数別の推移

令和4年は、約9割の地方獣医師会に女性役員が就任しているが、女性役員がいない地方獣医師会が6会あり、令和2年に目標としていた「現在女性役員がいない地方獣医師会は1名は女性とする、すでに女性役員がいる地方獣医師会は複数名とする。」はまだ達成できていない。



滋賀県獣医師会の場合

滋賀県獣医師会 部会・性別・年齢別会員構成 (R4.4.1現在)

	小動物部会		産業動物部会		公衆衛生部会		職域総合部会		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
20歳代	7	3	1	3		1			8	7
30歳代	16	9	10	5	3	3			29	17
40歳代	26	16	9	9	3	8			38	33
50歳代	29	11	16	1	5	3		2	50	17
60歳代	15	5	8		3		18	3	44	8
70歳代	12	1	2				24		38	1
80歳以上	2						13		15	
計	107	45	46	18	14	15	55	5	222	83

滋賀県も全国と同様に、20代～40代 男女数が接近している。

滋賀県獣医師会には8つの事業委員会があり、老若男女の獣医師がともに事業を推進している。普段は会うことのない異職種の獣医師が委員会で顔を合わせ、情報交換の場にもなる。理事や委員長選出については特に枠を設けることなく、男女構成の変化から自然な成り行きで、ありがたいことに目標を達成している。

副会長 1 (副会長3名のうち) 6期
理事 5 (13名中) 委員長 3 (8名中)

女性獣医師による懇話会を実施していたが、新型コロナウイルスに邪魔されている。男女ともにそれぞれの職場で力を尽くしてくれている。

獣医師会への加入率は、男性73% 女性65% である。

それぞれの獣医師会の事情を知ると、意識的に女性役員を増やしていくことの困難も見えてくる。(もちろんそれは必要なことかもしれないが)

委員会では、広い視野で方法を探り、世の獣医師の活躍のために力になればと願う。

4 自身の動き出す力

今は変わりつつあるが、昔は男性の職業・女性の職業という概念があった。たとえば看護師・保育士・パイロット・料理長 etc.etc.

女性ならではの視点・感性・心配りにより男性とはまた違う活躍の仕方、仕事の仕方が評価されての進出、また逆に男性ならではの力強さ・判断力・機動力が評価されての進出により、多くの職業に垣根がなくなりつつある。男女に関係なく、その職業への適応力や感性や情熱があれば不可能ではないことがわかる。お互いを認め合うことによって、残りつつある昔からの概念は突破されると思う。働き方についても補い合い、それぞれの特性を認めて理解を深め、他を包む思いやりを持って活躍してほしい。

もしライフステージの中で立ち止まり、獣医師の仕事から離れていたとしても、せっかく苦勞してなった誇りある獣医師。社会との接点を持ち続け、自分のしたいことを忘れないでいてほしい。勇気を持って一歩を踏み出す、その力を自分の中に貯めていてほしい。遅いということはない。優しき獣医師仲間は手を差し伸べてくれるはず。

5 さ い ご に

本誌11月号で委員長もふれている令和元年6月の「女性獣医師支援対策検討委員会からのメッセージ」を全文掲載させていただく。

是非読んでいただきたいので。

私たち獣医師は、多くの国費を使って育成され、仕事を始める。

そして、仕事をしていく中で、さまざまな経験をし、いろいろな方々と交流し、多様な価値観に触れることによって、さらに育てられる。

獣医師の活動を通じて、より広い経験や人脈を築いて、人生の幅を広げていただきたい。

今、男性中心だった時代の働き方の見直しが加速化され、多様な価値観の共存が容認されるようになってきた。

女性も男性も、さまざまな事情を抱えながら仕事をしている。

もし、今は本当に大変でも、やめるのではなく、今できることにしっかり取り組むことで、仕事を続けていただきたい。いずれ事情が許すようになったら、もっと力を発揮していただければよい。

そのことが多様な働き方を認め合う環境づくりにつながっていく。

そしてもし、今はどうしようもなく、退職や休業を余儀なくされたとしても、獣医師としてまた仕

事をすることをあきらめずにいていただきたい。いろいろな経験をして力をつけ、次のチャンスが訪れるのを待ってほしい。

せっかく獣医師になったのだから、仕事と生活の両方でのびのびと力を発揮して、どうか、自分らしく活躍を続けていただきたい。

私たちは、日本獣医師会の取組みを通じて、少しずつ、働きやすい環境づくりを進めてきた。これからも、皆さんのお考えを聞きながら取組みを続けていきたいと思う。

次回からは、より具体的なお話が続くと思うのでお楽しみに。